



## ～シリーズ第4回目は、『胃がん』についてお話しします～

### 胃の働き

私たちが健康に生活していくためには、食物からエネルギーや栄養を摂取しなければなりません。そのため消化・吸収・代謝・排泄をつかさどっているのが、口から肛門まで全長7～9メートルの消化器官です。



胃は、みぞおちのあたりに位置し、食物を一時的に蓄えて、栄養として吸収しやすい状態(粥状)にすることで、消化を助けています。健康な胃では、

- ① **胃酸分泌**：食物を消化するために胃酸を分泌する。食物に付着した細菌の殺菌も行う。
- ② **粘液分泌**：胃酸から、胃そのものを守るために胃粘膜から「粘液」を分泌する。
- ③ **蠕動(ぜんどう)運動**：食物と胃液を混ぜ合わせ吸収しやすい粥状にして次の消化器官である十二指腸へと運ぶ。

この3つの作用がバランスよく働いている。

何らかの原因でこのバランスが崩れると、さまざまな胃の不快感を感じる場合があります。症状としては、胃もたれや胸焼け、消化不良、さらには胃炎や胃潰瘍になる場合もあります。胃部の不快な症状や空腹時や食後の腹痛、異常な膨満感などがある場合には、胃の検査を受けるようにしましょう。

### 胃がんについて

**胃がんには特徴のある症状が必ず有るわけではありません。**そのため、知らないうちに進行しているということもあります。

ですが消化器のがんの中では大腸がんと並んで早期発見・早期治療をすれば完治する確率の高い病気です。症状がなくても、早期発見のためにも、定期的な検査をすることをお勧めします。

厚生労働省が行っている「人口動態統計」によると、がんによる死亡率(人口10万人に対して)を臓器別に見ると、胃がんは、肺がんに続いて2位となっていますが、死亡率自体は昭和40年代からは大きく低下していま

す。これは食生活を始めとする日本人の生活様式の変化、医療技術の進歩による早期胃がんの発見・治療などが要因として考えられます。男女別に見ると、男性では40歳以上で増加し、女性は40歳代では婦人科のがんの割合が高く、高齢になるほど胃がんの割合も増加しています。

### 胃がん検診

町では40歳以上の方を対象に、胃がん検診を行っています。去年は796名の方が受診しています。方法は、バリウムを飲んで胃のX線写真を撮ります。平成21年度の胃がん検診の日程は、平成21年7月3日・6日・7日・8日の4日間で行います。検診の結果必要となった方には精密検査受診票を発行します。

昨年受診された方、住民検診調査書で町での受診を希望された方には受診票をお送りいたします。前年度受診されなかった方で希望される方は一宮町保健センターまでご連絡下さい。

### 《お問い合わせ先》

一宮町保健センター  
福祉健康課 健康グループ  
☎40-1055